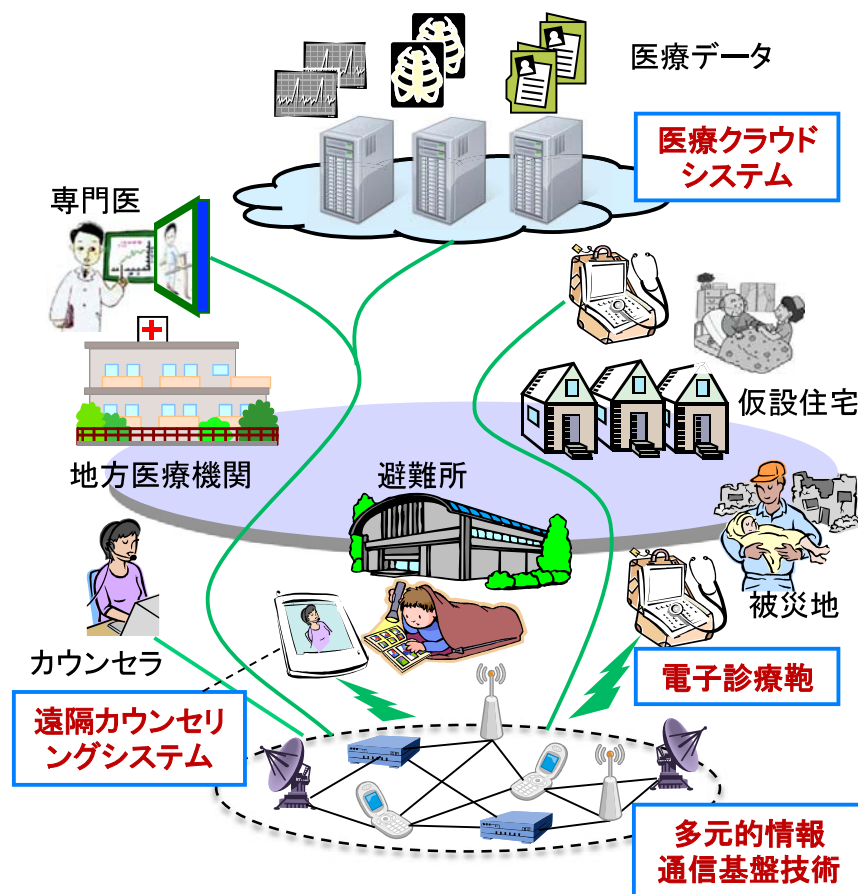


# 遠隔医療による被災地救援：訪問診療総合支援ICTシステム

東北大学 サイバーサイエンスセンター 菅沼拓夫、吉澤誠、本間経康

工学研究科 杉田典大、加齢医学研究所 山家智之、大学病院救急救命センター 中川敦寛



## 研究の背景：

- 被災地において、患者情報等医療データを共有したい
- 被災地の避難所、仮設住宅等において容易に遠隔医療サービスを受けたい
- PTSDなどの被災者の不安障害治療のため、早期に専門医によるFace to Faceの診療カウンセリングを行いたい
- 医師法の緩和：被災地における遠隔診療の承認

## 研究の目的：

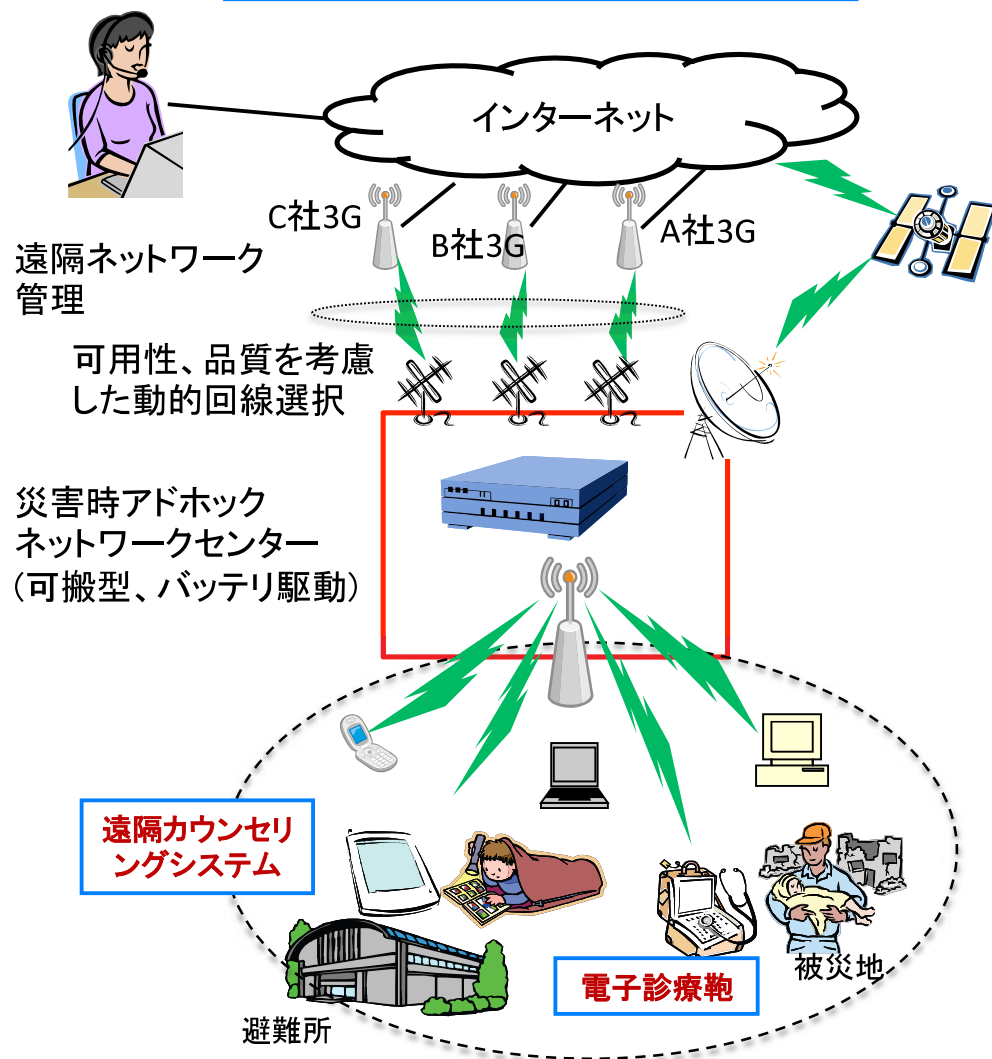
被災地での情報通信インフラが不安定な状況において、医療情報の共有、避難所・仮設住宅での遠隔医療サービス、専門医によるFace to Faceのカウンセリング等を可能とする「訪問診療総合支援ICTシステム」を開発する。

## 研究のコアとなる技術・特徴・特許：

- 電子診療靴の開発
- 遠隔医療システムの実証実験（仙台周辺と沖縄県宮古島）
- モバイルネットワークの管理に関する国際標準化

# 遠隔医療による被災地救援: 訪問診療総合支援ICTシステム

## 多元的情報通信基盤技術



## 研究開発項目:

1. 被災地遠隔医療を支援する**医療クラウドシステム**の構築
2. **電子診療靴**を利用した遠隔医療・介護サービスの展開
3. 被災による不安障害のための**遠隔カウンセリングシステム**の開発
4. システムを支える防災的にロバストな**多元的情報通信基盤技術**の開発

## 研究の波及効果・応用:

- 災害地での医療データの共有によって、地方医療機関の間の連携が促進される
- 避難所、仮設住宅等の被災者に対し、専門医の高度な医療を提供できる
- 専門家による被災者の精神的なケアが行える
- 被災地での臨時ネットワークを迅速、高品質、高セキュリティで構築することが可能

## 研究期間・予算:

- 3年間 3億円

## 共同研究先:

- 検討中